

前立腺がん

糖尿病薬で

糖尿病が怖いのは血糖値が高くなることではない。それを引き起こす生活習慣や体形が合併症を発症させることだ。とくに怖いのががん。2013年の日本糖尿病学会の調査報告によると、糖尿病患者はそうでない人に比べて約1.2倍のがん発症リスクがあるという。いったん発症すれば増殖に歯止めがかからないがんだが、「種類によっては糖尿病の注射薬で抑え込めるかもしれない」との日本人の研究論文が注目されているという。

薬の選択でがん死を増やさない時代へ

抑え込める!?

「現在、糖尿病の薬で抗血糖を下げる注射薬です。辛浩基院長だ。腫瘍効果があるとされて、前立腺がんの進行を食い止めるのに役立つ可て小腸から分泌され、イす」(辛院長)

「世界中的研究機関の能性があるとの論文が、一昨年、世界的糖尿病雑誌『Diabetes』に、そのメカニズムの『Diabetes』に掲載されたのです。解明も進んでいます。それに続く薬として注目されているのが『GLP-1受容体作動薬』です。ク」(東京・西蒲田)の容体)にくつつき、イン

「現在、糖尿病の薬で抗血糖を下げる注射薬です。辛浩基院長だ。腫瘍効果があるとされて、前立腺がんの進行を食い止めるのに役立つ可て小腸から分泌され、イす」(辛院長)

「世界中的研究機関の能性があるとの論文が、一昨年、世界的糖尿病雑誌『Diabetes』に、そのメカニズムの『Diabetes』に掲載されたのです。解明も進んでいます。それに続く薬として注目されているのが『GLP-1受容体作動薬』です。ク」(東京・西蒲田)の容体)にくつつき、イン

「現在、糖尿病の薬で抗血糖を下げる注射薬です。辛浩基院長だ。腫瘍効果があるとされて、前立腺がんの進行を食い止めるのに役立つ可て小腸から分泌され、イす」(辛院長)

「世界中的研究機関の能性があるとの論文が、一昨年、世界的糖尿病雑誌『Diabetes』に、そのメカニズムの『Diabetes』に掲載されたのです。解明も進んでいます。それに続く薬として注目されているのが『GLP-1受容体作動薬』です。ク」(東京・西蒲田)の容体)にくつつき、イン

スリンを分泌させ、血糖値を抑える。『GLP-1は、ほかに血糖値を上げるホルモン(グルカゴン)の分泌を抑制したり、すい臓のβ細胞を増殖したり、摂取した食物の胃からの排出を遅らせたり、食欲を抑えたり、脳神経の保護をしたなどさまざまな作用が明らかになっている。今回、新たな

スリンを分泌させ、血糖値を抑える。『GLP-1は、ほかに血糖値を上げるホルモン(グルカゴン)の分泌を抑制したり、すい臓のβ細胞を増殖したり、摂取した食物の胃からの排出を遅らせたり、食欲を抑えたり、脳神経の保護をしたなどさまざまな作用が明らかになっている。今回、新たな

スリンを分泌させ、血糖値を抑える。『GLP-1は、ほかに血糖値を上げるホルモン(グルカゴン)の分泌を抑制したり、すい臓のβ細胞を増殖したり、摂取した食物の胃からの排出を遅らせたり、食欲を抑えたり、脳神経の保護をしたなどさまざまな作用が明らかになっている。今回、新たな

乳がん、大腸がんも

「この研究はGLP-1受容体作動薬の抗腫瘍作用を、そのメカニズムまで詳細に明らかにした初めてのものです。私たちはまず、前立腺がん細胞にGLP-1受容体があることを免疫染色で確認。その後、GLP-1受容体作動薬を前立腺がん細胞に投与したところ、GLP-1受容体が多いと、がん増殖抑制効果が高いことが分かったのです」

その後、マウスによる動物実験でこれを証明した。学部内分泌・糖尿病内科の野見山崇准教授が言う。『GLP-1受容体作動薬は前立腺がんを自壊させることはありませんが、細胞増殖シグナルで用を、そのメカニズムまで詳細に明らかにした初めてのものです。私たちはまず、前立腺がん細胞にGLP-1受容体があることを免疫染色で確認。その後、GLP-1受容体作動薬を前立腺がん細胞に投与したところ、GLP-1受容体が多いと、がん増殖抑制効果が高いことが分かったのです」